

# 脳梗塞

(脳血栓と脳塞栓に大別されます)

## 主な症状

- ・左右どちらかの半身(手や足だけのこともあります)の脱力(運動障害)やしびれ感(知覚障害)、ロレツが回らない、頭で考えたことをうまく喋れないなどの言語障害、ふらついて真っ直ぐに歩けないなどの歩行障害、片眼だけが見えなくなる、見えてはいるが左右どちらかの視野が欠けてしまうなどの視力・視野障害が主な神経症状です。過去に神経疾患を患い、既存の神経症状のある方は、新たに加わった症状(追加症状)なのかどうかを慎重に判断ください。
- ・これらの症状が、ある日の何時何分かに突然出現すると、脳梗塞(又は脳出血)を疑います。
- ・これらの症状が5~30分で治ったとしても、それは脳梗塞の前ぶれ(一過性脳虚血発作)であり、本格的な発作の前兆と考えます。

## 脳梗塞に気づいたら

- ・すぐに119番に電話相談をして、脳卒中治療を専門としている二次医療機関(病院)に搬入してもらいましょう。消防法が改正され、新潟県でも平成23年度から、そのような相談を受けた救急隊は直ちに専門医療機関(病院)に搬送することになっています。
- ・「新潟市急患診療センター」には脳卒中専門治療に必要な検査設備や入院設備がないので、超早期治療の機会を失い、場合によっては、手遅れになりかねません。従って、脳梗塞に限らず、あらたな脳卒中を疑う場合の急患診療センター受診については、積極的には勧められません。
- ・「今は夜だから、明日の朝診でもらおう」「今日は日曜だから月曜に病院に行こう」という行動パターンも大きな間違いです。

## 長早期治療法

- ・最近のあらたな脳梗塞の治療は「時間との勝負」「Time is Brain(Brainは脳のこと)」といわれます。新薬として、動脈に詰まった血栓を溶かすことのできる最も強力な薬「t-PA(組織プラスミノゲン・アクチベーター)」が使えるようになったからです。
- ・もちろん、すべての脳梗塞患者にt-PA治療法の適応がある訳ではありませんが、平成24年に、このt-PAを使った方は使えなかった方より4倍復職率が高かったという研究成果が発表されました。ただし、t-PAが使えるのは発症から4時間半以内という厳密な規定があり、t-PA使用の適応判断のための(MRIや血管撮影などの)検査に、急いでも1時間半位かかります。
- ・1分でも1秒でも早く使った方が大きな効果が期待できるとともに、遅くなればそれだけ副作用(合併症)の危険が高くなります。だからこそTime is Brain!なのです。119番、あるいは脳卒中を専門としている近くの医療機関への相談を急いでください。

## 救急車を呼ぶ

- ・上記のような症状が見られたらただちに救急車を呼んで脳外科を受診してください。急患診療センターは日曜祝日の昼間以外では対応できません。

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)

<http://www.niigata-er.org> © 2014 NGTER.org